

図書館という公的な空間から新しい出会いを考える

～図書館×「やさしい日本語」×共生～

日時:2024年2月10日(土)

会場:武蔵野プレイス3階スペースC (JR武蔵境駅前)

参加者数:第1部29名、第2部23名

内訳

- ①来場者19名
- ②外部からのパネリスト2名(原島、和気)
- ③市民活動センターボランティアスタッフ3名
- ④実行メンバー5名(新居、阿部、樋渡、榎盛、加藤)



◆パネリスト及び司会進行 新居みどりさん

(CINGA コーディネーター、市民社会をつくるボランティアフォーラムスタッフ)

第1部 (主催:東京ボランティア・市民活動センター)

市民社会をつくるボランティアフォーラム TOKYO2024 分科会 12

図書館という公的な空間から新しい出会いを考える

～図書館×「やさしい日本語」×共生～

13:00 受付開始、13:40 まで館内自由見学

13:43~13:50 開始挨拶、本日の主旨と流れ説明(新居)

13:50~14:10 「～ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス～」(原島)

14:10~14:38 「弱い紐帯を育む北欧の公共図書館」(和気)

14:38~質疑応答

15:00~「やさしい日本語とは」、グループディスカッションの進め方(新居)

15:05~グループディスカッション

※グループ(カッコ内は進行役)

(A) 6名(新居)

(B) 5名(阿部)

(C) 5名(樋渡)

(D) 6名(加藤)

(E) 5名(M)

15:23~振り返り(参加者全員からひと言感想)

15:36~講師感想

15:45 終了、休憩



◆パネリスト 原島正臣さん(武蔵野プレイス館長)



◆パネリスト 和気尚美さん(三重大学情報教育・研究機構招へい教員)

第2部 (主催:NPO 法人国際活動市民中心 CINGA)

図書館発 地域の移民サービス・外国人支援をまじめに話し合う会

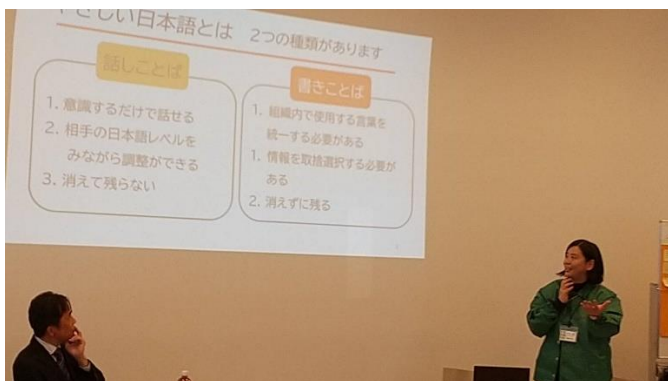
16:10 開始、質疑応答、対話

16:45~ひと言感想記入

16:50~講師感想

17:00 終了、片付け





⑤公共図書館に勤めており、現在「やさしい日本語」の利用案内を作っており、ヒントになればと思い参加しました。「やさしい日本語」の考え方の基本が改めてわかり良かった。実際には紙におとすとき、言葉だけでなく、デザインや情報の厳選なども重要で、難しいと感じています。外国の方の不便さに想像をふくらませたいです。



⑥人と出会ったり、出会ったことで、何かが始まったりということ、あるよなーと、今日、改めて思いました。と同時に、年を重ねるたびに、活動を広げることの心身の疲労も感じます。自分にできる範囲で、楽しい気持ちを持てるやり方で、動いていきたいです。こちらこそありがとうございました。

⑦知りたいことが知れてよかったです。貴重な機会をありがとうございました！



来場者の感想

※第2部来場者から集めた、ひとこと感想

①図書館、やさしい日本語、社会教育、福祉など、様々な領域にまたがった話を聞きたいと思っていたので、今日の内容はとても楽しく、特に本編終了後の延長戦は興味深い話を色々聞けました。

②読書バリアフリー等、単館では難しいので、他の機関や行政との連携が大切だと感じました。場所のつながり、人のつながり、人間関係の重要性を再認識しました。

③図書館について、より多くの人に活用してもらうため、どうするかヒントを得たい→まず、本を読んでもらうことを、ねらわずに来てもらう。とにかく、誰もが、居ていい場所と、とらえてもらう必要有り。

④ここに来た理由→「武蔵野プレイス」に来てみたかった＆「やさしい日本語」に関心があった。

感想：参加された方からも、いろいろな地域の体験をふまえたお話が聞けてよかったです。ありがとうございました。

⑧図書館において、多文化、多様性への取り組みがどのように行われているのに興味がありました。「図書館＝勉強する場所」というイメージでしたが、人々の交流を促す場に変化しつつあると思いました。ただ、それによる反発、対立への対応は考えるべきであると考えます。

⑨自分は障害者ですが、①電子図書を使ってみる、②公民館の活動に参加してみる、の2点をやってみようと思いました。





⑩本日の参加理由：「場としての図書館」、図書館を媒介として人々がつながり、自主的に何かを産み出していくようなあり様は、どうしたら実現できるのだろうかという問題意識。

参加しての感想：まずは「難しそうだな」。原島館長に「アクションの連鎖」について伺いましたが、「気づく・知る」のきっかけ作りはできても、その先の「参加する、創造する」の部分はなかなか難しいというお話でした。その難しい部分に対する仕掛けについて、考えていきたいです。

⑪子ども食堂や若い女の子の居場所づくりのボランティアをしています。居心地の良い環境づくりのヒントを得られたらと思い参加しました。パネリストのお話、参加者のお話を聞いて、多種多様な取り組みを試行錯誤しながら実践していくことが大切だと思いました。



⑫行政頼りだと、なかなか難しいことが多いかと思います。お寺で子どもの居場所作りをしていますが、今は大人の居場所作りにもなっています。月に1回、子どもたちは50人程、ボランティアも30人程集まって、勉強や遊び、子ども食堂的なこともやっています。ただ、月に1回なので、他の町内会等の会館でも同様の取り組みが広がっています。日常的に不登校の子が集えるには、図書館の役割が大きいかと思います。行政は議会に弱いので、陳情や請願をどんどん出して、未来の図書館のあり方など提示すると予算がつきやすいと思います。

読書バリアフリー、勉強になりました。

⑬図書館って、まだ²可能性あります。

全世代が行って良い場所だと、言われて気がつきました。

⑭やっていること：図書館で仕事。NPOで国際交流。ボランティアで野宿者支援。→図書館という場所で何ができるか、やさしい日本語と共生を考える事例やヒントを得たいと思って参加。

⇒参加してみて、場所が大事（何をするにも）。自分の勤務先は、多目的室がなく、何をするにも区の集会室を借りなければならず不便。やさしい日本語の考え方は、全部につながるので、職員研修にとり入れたい。

⑮とても闊達な意見交換ができて、多くの気づきがありました。ありがとうございました。



市民社会をつくる
ボランタリーフォーラムTOKYO2024

図書館という公的な空間から
新しい出会いを考える
～図書館×「やさしい日本語」×共生～

2月10日(土)

集い
語ろう！
1,000円

場所：武蔵野プレス
時間：13:30-15:30

自分との対話を探る場として進化してきた公立図書館ですが、コミュニティの中核としての取り組みも行われています。図書館を通じた新しい出会い、人が集い・つながる場づくりに取り組む「武蔵野プレス」において、移民や難民など多様な人びとが出会い集う北郊の図書館の事例を学びます。海外図書館に詳しい研究者と武蔵野プレス館長、専任で、コミュニケーション方法としての「やさしい日本語」の視点も加えて、会員参加型の対話セッションを行います。日本国内の多様な地域における公的空間を活用した新しい出会いと共生について考えませんか？

原島正志 (武蔵野プレス館長) 和賀剛美 (三豊大学) 新藤みどり (NPO法人CINGA)